願成寺報

令和五年九月十四日

〒四四〇・〇八一二　豊橋市東新町二十八番地
☎ 〇五三二・五二・九六〇一

■ 秋季彼岸・永代経のご案内

コロナの影響で病院等は まだ面会を制限しています
感染対策も考えつつ 大切な法要を勤めます
・出入口と窓を開けて換気します
・マスクの着用は それぞれにお任せします
事前にご連絡下されば席を用意します
・お斎（昼食）は もう暫く控えます
午前・午後共のお参りで
昼食にお困りの方はご相談下さい
春季と同様に勤めてまいります。

九月　~~二十二日（金）~~　~~午前十時~~　~~餅つき・草取り会~~　~~中止~~

九月　二十三日（土）　午後一時半　法要のみ

二十四日（日）　午前十時　法要・法話

~~正午~~　~~お斎（昼食）~~

午後一時　法要・法話

法話　浄泉寺（岡崎市）
住職　戸田恵信 師

「自他の区別」を越える方法

浄土はある、けれど感覚し難い。地獄はない、けれど創り出している。
それは煩悩の作用で、その本質は自他を区別することにある。
その区別を止めることが出来れば、「生死（しょうじ）」の問題も解消する。
「臨床宗教師」の講座を聞きながら、そんなことを考えていました。
「その人」は、布教や営利を目的とせず、常に相手の人格を尊重します。
「その人」は、緩和病棟や被災地に於いて、スピリチャル・ペインをケアします。
スピリチャル・ペインとは、
痛ましい思い出、忘れたい思い出、罪悪感、達成できないこと、
孤独や悲しみ、怒り、羞恥心、将来の不安、絶望、恐れ、虚無感、等、
だそうです。
「その人」は、主に傾聴によってケアを行います。
傾聴を、意味のある聴き方とする為に、心がけるべきことがあります。
自己一致または純粋性　　相手への自分の感情や思いを常に意識する
無条件の積極的関心と受容　相手の 感情/思考/行動 の善悪を判断しない
正確な共感的理解　　共感していることを的確に表現し続ける
その態度は、念仏に済（すく）われていく者がする態度に等しいと感じました。
念仏は、如来による「我にまかせよ、必ず済う」の本願に応じる行いです。
私は、この本願を「自らのはからいを捨てて心を世界に開け」と聞いています。
誰かと開き合った心が繋がる時、感動と共に大きな信頼が生まれます。
その信頼こそ「真宗の信心」を解くカギであり、人生を尽くす活力だと思います。
大涅槃とは、こんな風に「自他の境を越えた処」にある境地なのかも知れません。

信ハ願ヨリ生ズレバ　念佛成佛自然ナリ
自然ハスナハチ報土ナリ　証大涅槃ウタガハズ

《善導禅師和讃・親鸞聖人》

●阿弥陀経ノート ⑨・正宗分・勧念仏・諸仏証誠

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

舎利弗、我が今、阿弥陀仏の不可思議功徳を讃歎するが如く、東方にも、阿閦鞞仏・須弥相仏・大須弥仏・須弥光仏・妙音仏、是の如き等の恒河沙の数の諸仏ましまして、各その国に於て、広長の舌相を出して、徧く三千大千世界に覆い、誠実の言を説きたまう「汝等衆生、当にこの『称讃不可思議功徳一切諸仏所護念経』を信ずべし」と。

（「不可思議の功徳を称賛する諸仏によって護念せられる経」）

舎利弗、南方世界に、日月燈仏・名聞光仏・大焔肩仏・須弥燈仏・無量精進仏、是の如き等の…（東方世界に同じ）

舎利弗、西方世界に、無量寿仏・無量相仏・無量幢仏・大光仏・大明仏・宝相仏・浄光仏、是の如き等の…（東方世界に同じ）

舎利弗、北方世界に、焔肩仏・最勝音仏・難沮仏・日生仏・網明仏、是の如き等の…（東方世界に同じ）

舎利弗、下方世界に、師子仏、名聞仏・名光仏・達摩仏・法幢仏・持法仏、是の如き等の…（東方世界に同じ）

舎利弗、上方世界に、梵音仏・宿王仏・香上仏・香光仏・大焔肩仏・雑色宝華厳身仏・娑羅樹王仏・宝華徳仏・見一切義仏・如須弥山仏、是の如き等の…（東方世界に同じ）

〈仏説阿弥陀経・書き下し〉

・不可思議…　本経典でここまで説かれてきた阿弥陀仏の功徳。

・恒河沙の数　ガンジス川の砂の数、無数、無量。

・広長の舌相　仏の三十二相の一つ、誠の心から出る嘘のない導きの比喩。

・三千…世界　各仏が照らす広大な世界、各世界は私の上で重なるか…

・諸仏　　阿弥陀仏の功徳を具体的に讃歎／実証し念仏を勧める主体。

・諸仏に囲まれている私

私を中心として、東南西北下上の六方に無量の諸仏とその世界があると語られている。何かを始める時、順風の時、逆風の時、それを終える時、過去を振り返る時、思いを未来に馳せる時、全ての場面を、数多の諸仏が支えていると説かれている。その諸仏の励ましや護念の力を、今ここ、この場所で感じられないのであればこの教説に意味はない。

・疑いの元を砕く諸仏のはたらき

諸仏は、阿弥陀の不可思議の功徳（大慈悲心）をいのちとするから諸仏なのだ。そのことを事実として、諸仏は「弥陀の大悲に帰せ」と衆生を促している。それは、草が靡くことで風を教えるのと同じだし、もっと積極的に「誠実の言」を「広長の舌相」にて私にはたらきかけている。

私の思いは不安定で揺れ動く。そして直ぐに行き詰まる。その思いをいのちとする場合、「どうせ私なんか」とか「もうどうでもいいや」と投げ出さざるおえない状況となり、生きる意味や神仏を疑う。そんな時、同じ状況を踏ん張って、心は豊かに過ごしている姿に遇ったらどうだろう。その姿に憧れながら、「いのち」とするものが間違っていたと気づくのではないか。

大悲をいのちとして、心を世界に開きつつ、出来ることを淡々と行っていく歩みは、諸仏に遇うことにより始まり、その姿を念じることにより継続できる。諸仏の無量は、私に起こる全ての状況を尽くしている。

・諸仏に遇う

大悲の功徳を讃歎しつつ、その誠を生きる（証誠）、その姿が他を護念し、浄土へと導く（勧信）。そのようにはたらくものを諸仏と再定義してみる。もし、樹木や昆虫等にも、そのはたらきを見たならば、それは既に諸仏といえる。

そんな風に諸仏を見出していく歩みは、必ず浄土に向かうに違いない。

創作・キサーゴータミー

キサー・ゴータミー。その名は「痩せたゴータマ姓の女」という意味らしい。
彼女は、極貧の家に生まれて、幼いころから苦労を重ねた。
けれど、不思議の奇跡によって、富豪の家に嫁ぐこととなった。
はじめ蔑まれていたが、跡取り息子を授かったことで立場が変わった。
彼女は、子を護る母として、拓くべき将来を描いていた。
しかし、その子は一歳を待たずに突然亡くなった。
彼女は、その理不尽な事実を受け容れることが出来なかった。
既に死臭のする子を抱いて、釈尊に薬を求めた。
薬の材料に、芥子の実が必要だ。ただし、死別のない家から貰い受けること。
街中を訪ねたが、その実は得られなかった。
街外れの森の迫る場所で、疲れ切って座り込んだ時、風の中に声が聞こえた。
「ボクの世界はパパや沢山の人に囲まれてにぎやかだよ」
「ママはそこで寂しいの?」
「なんで?」
彼女の眼には涙が溢れて、堰を切った嗚咽が止まらなかった。
彼女は、自分の父母、兄、近くは夫とも既に死別していた。
死別があることについて、既に良く知っていたのだ。
問題は、拓くべき将来が崩れたことにあったのかも知れない。
彼女は、その子に遇えたことに感謝しつつ、その子を丁寧に葬った。
そして、奇跡や理不尽に惑わぬ生き方を求めて出家した。
やがて、「粗衣第一」と称される尼僧の指導者となり、
ボクの世界と同様に、仲間と共に賑やかに、その天寿を安らかに終えた。

不死の境地を　見ることなしに　百年間も　生きるより
たとえ刹那の　生であれ　不死の境地を　見られれば
これより勝る　ことはない

〈釈尊の詩〉

〈「キサー・ゴータミー」の Net 検索より創作〉

少欲知足　もったいない

本堂前の覚りの樹（菩提樹）が枯れそうです。
何だか不吉だ。
いや、それは仏様からの大切なお知らせ、
生活態度を改めましょう。
いやいや、すぐに樹木医さんに相談しましょう。

和顔愛語　ようこそ ようこそ

今年のお盆は、台風もお参りに来られて…
本体から遠い所で竜巻がおきたりしていました。
思ったほど荒れなくて幸いでしたが、心配でした。
台風迫る中、歓喜会法要(八月十五日)は中止と、
役員方に連絡しました。
家族だけで勤めようと準備を始めた時、
なんと十人余りの勇者がお参りに来られました。
賑やかにお勤めできて良かったのですが、
大切なお身体です、お気をつけ下さい。

恭敬三宝　おかげさま

高田本山・大法会に五月二十四日、
近隣のお寺様と共に団体参拝しました。
願成寺からは、十四名が参加しました。
幹事としては反省点がありますが、
好天にも恵まれ、良いお参りができました。
津市一身田の本山は一四七四年、
真慧上人が建立した寺が発展したものです。
ちょうどその頃、願成寺も産声をあげています。
伝承によれば、一五二二年開基なのだとか。
以来 **五〇〇年**、大切に護寺されてきています。

行事予定　～令和五年秋以降～

九月　二十四日（　日　）　秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信　師)
お馴染みの先生の情熱的な法話です
お非時（昼食）なし
午前十時～

十一月　三　日（金・祝）　本山納骨堂法会・団体参拝
コロナで中止していた行事ですが
四年ぶりに催行します
近隣寺院と同行する日帰り旅行です(左記)

十二月　九　日（　土　）　報恩講
十　日（　日　）　御開山聖人御恩に報いる法会です
お非時（昼食）中止の場合あり
土曜日　午後一時半から
日曜日　午前十時から

毎月一日　月例会
十二月は　二日(土)に　変更します
午後二時　～　時間変更の場合等あります、
寺までご確認下さい

本山納骨堂法会・団体参拝　募集中

- **期日**　令和五年　十一月　三日　（文化の日）
- **行程**　七時頃　正太寺駐車場　集合/出発
　十時半　本山到着・自由参拝
　納骨/本堂勤行/新宝物館見学/他
　十二時　昼食
　十三時　参拝団勤行/本山出発
　十五時　おちょぼ稲荷（買物など/一時間）
　十八時半　解散予定（夕食弁当あり）
- **会費**　一万円　バス/保険/昼夕食/他
- **募集**　九十名　募集人員に達し次第〆切ます
- **連絡**　願成寺　お気軽にお尋ね下さい

‡　後　記　‡

○　助けを求める勇気

結局、「自分を良く見せたい」の思いが元凶なのだと思う。
それは、「悪い自分を見せたくない」と変化して、成果を出す障害となる。
成果物の提出を保留しておけば、「良い自分」となる可能性だけは残る。
成果を出せない自分は、悪い姿となっているにも関わらず…
いや、そんな馬鹿なはずはない、ただ自信がないだけなのだ。
周りの期待に応える自信。
その期待は壁となって、留保の時間が長くなる程高くなっていく。
早く成果を出さなければと焦る程、向き合うことが難しくなる。
誰にも助けを求められず、引きこもりの状態となる。
期待はそれほど高いのか…　それは自意識過剰による認識の間違いか。
ほんの少しの勇気があれば、楽になれる、抜け出せるのに…
「自分をさらけ出して助けを求める勇気」だけが必要だったのだ。

- 文章を書いたり、発表したりするのが大嫌いな私
- 必要以上に参考書を読み続ける私
- 嫌なことに向き合えず、スマホの不要なニュースを気にする私
- 〆切をドンドン先送りする私
- うまくいかない責任を　何か/誰か　に転嫁しょうとする私
- 失敗を畏れる意気地のない私

自意識過剰は、「受け入れて貰えない恐怖」の裏返しだろう。
もっと世界を信頼できれば、事態は好転する。
そうだ、阿弥陀経を読もう。そして勇気を奮い起こすのだ。

○　「他力の救済（抜粋）」清沢満之

明治期に真宗教学を深化した先生の、苦闘の果ての言葉を付記しておく。

我、他力の救済を念ずる時は、我が処するところに光明し、
我、他力の救済を忘るる時は、我が処するところに黒闇覆う。
ああ、他力救済の念は、よく我をして迷倒苦悶の娑婆を脱して、
悟脱安楽の浄土に入らしむが如し。